

發行兼編輯人 川崎文治

福島縣石城郡平町長崎町卅五番地

印刷所 常盤毎日新聞社

定価 一部金貳錢 廣五錢十二行 日刊休日 日曜入券 福島縣石城郡平町長崎町卅五番地 印刷所 常盤毎日新聞社

郵税五厘 料告字詰一行 日刊休日 日曜入券 福島縣石城郡平町長崎町卅五番地 印刷所 常盤毎日新聞社

常盤毎日新聞

刊夕日五月三

常盤毎日新聞

刊夕日五月三

渡邊藥局

品染料染 劑調方處

目丁三町平 郎五政邊渡 (向局便郵)

常盤文藝

淋しい少女 希強 兒

我れは淋しい少女
なみだにぬれて君を思ふ
かゝる静けき黄昏に
君を思へば千々に悲しく
君を思へば千々に樂し
我れ幼くして涙多く
父なき子ほらからなき子
淋しき身の明け暮れに
早くも君を知りそめぬ
紫の鳥の亂るゝ空
桃色の日の沈む花むら
胸踊る若き血の
燃ゆる夏の日の明け暮れに
早くも君を知り初めぬ
君よ我が尊き命よ
我が満月よ
我れ君と共にあり
君我れと共にあり
君も若く我れも若し
君よ相抱き進まん
いばらの路を
浮世の風は冷たくとも
之の愛は焰と燃えん
何を恐るべけんや

一冊の代金で
御希に通りな
五冊の雑誌が
自由に讀める

平町長崎町三五
川崎回文庫
(申込次第規則書進呈)

喰べて
たいしい
遠藤パン
(有聲座隣)

内小淋梅
科兒病毒
科科科科
(需應院入)

平町紺屋町
藤沼醫院
電話園五〇七番

生徒募集

平産婆看護婦學校

平町南町 電話三〇七番

私立藤田縫裁女學校

○詳細ハ本校定學則請求ノコト
福島縣平町田町

左ノ事項ニヨリ本科生百五十名普通科
第一學年生百五十名ヲ募集ス

一、願書提出期限 三月卅一日限
二、試験期日 四月一日午前九時ヨリ
三、試験ノ課目 國語及算術
四、試験ノ程度 高等小學校卒業
五、試験ノ要具 筆答ニ要スル鉛筆小刀等
四月四日午前十二時

城山 磐城佑賢學舎

亡母トミ儀本
日葬送の際に
は遠路態々御
會葬被成下殊
に御鄭重なる
御香奠を辱ふ
し難有乍略儀
以紙上御厚禮
申上候
大正十四年三月五日
嗣子遠藤保夫

第二の軍縮問題 政界通人

米國が今回第二軍縮會議を
開催すべしとのことである
が果して何うか今の處明か
でないがその何れにありと
しても早晚各國の間に議題
となるべきものは補助艦艇
制限であることは略想像す
るに難くない處である何故
なれば華府會議の際艦艇の
比率制限のみにしてつた
といふことは如何にも同會
議が龍頭蛇尾に了つた嫌が
あるの一方であることは明瞭
で此主力たる戦艦に制限を

加へその比率を確定したる
以上その缺陷を補ふために
は補助艦艇の擴張を計る外
ないのであるが華府會議に
於て我全權の失敗によりて
我艦艇は五、五、三の比率
に満足しなければならぬや
うになつたことは大に注目
すべき事である眞に戦艦の
比率を正さんと欲せば日本
は五、五、四の比率を取ら
ねばならぬのであるが如何
せん全權の接衝と我與論の
冷淡なりしたため遂に彼の不
結果に終つたのである若し
彼の與論を指導して我要求
を強硬に主張せしならば
必ずや或る點まで成功した
に相違ないと思ふ然るに米

國は之れに反して與論を非
常によく利用しその聲によ
りて我國を掣肘するに至つ
た現に英米兩國の海軍力を
比較するならば如何なる見
地に立つも英米が同一率に
律すること能はざるのは衆
目の見る處であるこれが世
界の大海軍國たる英國と同
一の地位に立つことを得た
るは畢竟米國民外交の成功
である故に今後補助艦艇問
題が喧しくなれば必ずや此
戦艦の制限によりて失ひた
る我主力の欠陥を補助艦艇
によりて補ふ外ないのであ
る

不思議な農作物增收新藥 獨逸よ
議なチランチン

農村振興の農作物は增收によりて解決す
收穫増進はチランチンの使用にあり
チランチンの使用は刻下の急務

殺菌作用
一、チランチンは種子の内外に潜在又は附着する有害なる
微菌を驅除し種子を強健にす

興奮作用
二、チランチンは種子に適度の刺激を與へて發芽機能を興
奮的に促進せしむ

營養作用
三、チランチンは農作物の根ばりをよくし莖を丈夫にし發
育に要する營養素を充分に吸収せしむ

使用効果
四、チランチンは成長力を旺盛にし收穫を増大ならしむる
特效藥なり

チランチンは歐洲大戰當時世界的封鎖を受け食料の窮
乏を訴へ俄に瀕したる獨逸が苦心研究の結果發明
したる新藥にして獨逸は之が爲に大なる祝福を與へ
らる吾邦の現狀は實に獨逸の當時に劣らざる農村問
題の難關に達す、吾社が此藥を普及せんとするの
は只此詰れる農村振興に資せんとするに外ならず
ドイツに於ける實驗の效果

麥、豆類 四割以上の增收
菜類 七割以上の增收
稻、麥作 二割以上ノ增收
蔬菜類 四割以上ノ增收

說明書進呈御照會ヲ乞フ

獨逸國マイン河畔ヘキスト市
マイステル・ルチウス・ウインドブローニング
日本及其領土總代理店
福島縣平町二丁目
獨逸農業藥品株式會社
チランチン發賣元

チランチン代理店 西村屋藥舖
藥劑師 鈴木堅助
電話 三番

雪隠問題には 飽迄も強硬に對抗

七名の委員を挙げ

關係農會に交渉を開始

糞尿只汲みの雪隠問題、農村に於て難い重要問題である。と爲し昨日午後二時から平町役場に行政衛生兩區長が參集善後策を構した事は昨記の如くであるが其結果飽迄強硬な態度を以つて隣接村農會に對抗すべく行政區長側から植頭鶴松、花澤久一郎、丹野榮三郎、山崎喜正の三氏衛生區長からは佐藤長造、吉田伍平、平松武の三氏が委員に挙げられ夫々交渉を開始する事になつたが、一方平町農會長山崎與三郎、縣會議員井上茂作の兩氏は種々の理由を以て調停の勞を執る事となり水野郡長を促して明日郡衛に關係農會首腦者の參集を求め折衝を試みる事となつた。

婦人農事講習

今度は小名濱

石城郡小名濱町農會主催婦人農事講習會は三日から八日迄毎日午前十時から同町小學校に開催する筈であるが課目及び講師は左の通りである。

絶縁状態

五丁目舉つて

平町五丁目には雪隠問題に對し同區としての態度を定めて置く必要がある。昨夕吉田屋にて協議會を開いたが同町三森長次郎氏は同問題解決迄従来の半額にて一手に同町の糞尿を引き受け自家田畑の肥料に當つべき旨を言明した爲め氣勢頗る揚り全戸舉つて従来の

枚数を加へれば千枚以上に及ぶであらうと

平窪消防協議

石城郡平窪村消防組第一部にて五日消防事務に付き打合せを爲したと

勿來關の實地踏査

武井上席と地元有志が

既報前國柱會總裁田中己之助氏は三日來郡武井首席書記の案内にて窪田村長や平窪町長其他が隨行し勿來關趾を實地踏査したが來月十九日の關除開幕式には山上に於て源義家凱旋の歌陪爐の曲ある外筑前琵琶の名手松本旭鶴氏は田中氏の新作「勿來」を演奏すると

湯本町火の見

石城郡湯本町宇上町消防火の見櫓は腐朽甚しい爲め二日の町會に據り三百圓を投じて改築する事と決したと

一先づ解散

兵糧が不足

既報石城郡四倉町漁夫は隣



庭家

寒さが明たら

ヒフの手入れ (下) では飲料としては何がよいかと申しますと、純粋の山から出た水を飲み、そしてこの水で皮膚を清潔にすれ

小名信用總會

石城郡小名濱町信用組合第二回通常總會は二日同村小學校に於て開會、同組合理事を改選し入止十三年度の決算報告を附議したと

玉川晝火事

けふ七棟焼く

石城郡玉川村大字野田字田中醬油醸造業小松平雄方から本日午前十時出火し三戸七棟を烏有に歸して午前十二時鎮火した原因は未だ不明である

公金を費消し

好助役收監

石城郡好間村収入役熊谷好太は豫て公金六千餘圓を費消せる噂専らあつたが其後事務の引續ぎ整理に苦しみだ結果か此程中行衛を晦ましてゐた處終に犯跡明白に至つたものか三日夕刻潜伏場所から平検事局に拘引嚴重取調の後收監されたが四日午前十時同村長大平新吉元村長木田彌作、等同地方の主要の人々外數名平検事局に召喚され名々長時間に亘つて取調あり午後五時に至るも一同歸宅を許されなかつた審問の進行に伴ひ事件の範圍は擴大を見る模様がある

他殺の疑ひ

平署から急行

石城郡平窪村大字杉之内松本和(一)は去る一日以來行衛不明のところ四日朝同郡赤井村地内夏井川の堰に死體となつてひつかつてをつたのを發見したが他殺の疑ひあり平署から係官出

常磐片々

五丁目が全戸舉つて雪隠汲み取りの農家に三ツダリ半を叩き付く、近來の痛快事中正に是れ傑作中の傑作

春の襟半

柄は段寫實、値は二三圓、最も重要なものがこの春の流行として店頭に現れた物を見

草花や 櫻等の枝や葉葉までたくみに取り入れ或ひは直線的に取扱つたり唐草風にあしらつたりした物等があつて面白く西洋草花を應用した物等は若い令嬢向

緊急問題を

幹部が協議

大瀧發電所反對同盟會は本日午後七時から大森勇宅にて幹部會を開き緊急問題を協議すると

公人私人

木村縣農會技手 石城郡平窪村農會指導の爲め五日來郡した

佐々木英氏 作曲家三四の兩日平第二小學校の唱歌研究會に臨み本日午前六時十分の平郡線にて郡山市に向つた

平町物價

品名	單位	價格
白米	一升	四四〇〇
白米	二升	四三〇〇
白米	三升	四二〇〇
白米	四升	四一〇〇
白米	五升	四〇〇〇
白米	六升	三九〇〇
白米	七升	三八〇〇
白米	八升	三七〇〇
白米	九升	三六〇〇
白米	十升	三五〇〇

平町人事

出生
△才地小路一 木村勝右衛門氏二男 德兵衛
△胡原澤一三三 安達米吉氏長男源
△鎌田町三五 鈴木定一氏次女瑞子
△三丁目三八 篠原傳氏長男宏次
△田町七〇 遠藤トメ(六五)
△古鍛冶町三一 豊田イセ(五三)
△才地小路三一 青木兼吉(六六)
△鎌田町四六 加澤ツメ(四六)

復興債券

千枚以上に

平地方に於ける第二回の復興債券賣上枚数は昨日の締切迄に磐城銀行の四百六十枚を筆頭に平銀行百五十三枚、磐城銀行六十枚、磐城實業銀行四十枚、郵便局五十枚であるが此外支店賣上

是れでも「肥料と見ますか」なんてタワケた癡言をオツシヤいます哉

否獨り五丁目のみならんや各町一致で飽迄強硬